

平成30年度第2回浦河町社会教育委員会議報告書

■日時 平成31年3月29日(金) 18:30~20:30

■場所 浦河町総合文化会館2階第3研修室

■出席者

<社会教育委員>

(出席委員) 13名

津澤静子委員長、野上由佳委員、関口明子委員、米山 豊委員、谷川雅隆委員
坂本廣子委員、三浦敦子委員、小林光紀委員、野崎 充委員、吉瀬献策委員
松本正美委員、

(欠席委員) 7名

奈良淳弘委員、大野初美委員、菅 正輝委員、久保珠里委員、高塚富士美委員
向谷地悦子委員、武田宗務委員、

<教育委員会>

浅野教育長、和田課長、民部課長補佐、須甲主幹、児玉係長、
那須野主査、武田主事

1. あいさつ

浅野浩嗣教育長、津澤静子委員長より

2. 報告事項

(1) 平成30年度浦河町社会教育委員活動報告について

別紙資料1に基づき事務局より説明

(学校訪問について参加した委員より)

【A委員】

だいぶ時間が経っているが、どの学校もわれわれの想像した昔の自分たちのことを振り返ってみると、英語の授業内容など変わっているというか進んでいるなと印象を、小学校での同じ内容をわれわれは高校で習ったのではないかというくらい授業内容は進んでいるなと感じを受けた。先生方もいろいろ教えていく中で工夫されている。研修中は1時間びっしりいられるわけではなくて10分15分そこらで次の授業へ行き、あまりゆっくりしたものではなかったけれども、とにかく先生方はいろいろ工夫されておられるなという印象を受けた。終わった後、感想をその学校の中で求められるが、私の考えとしては、授業を一回みただけで感想をうんぬんというのはなかなか授業の仕方がどうだとかそんなことまではふみいられるわけでもなく、戸惑いはある。あまり感想とか込み入ったことは求めない方が逆に、そういうのを見てもらう感じでもよかったのかなと。社会教育委員は特に。教育委

員さんは毎年行っているが、社会教育委員は初めてのことで比較するものがなかったので、あまり手が回らなかったのがまずかったのかどうか、なかなか発表できるような雰囲気ではなかった。ただ、とにかく子どもたちの授業を受けている態度も良かったし、どこの学校も同じ。先生方も本当にいろんな教え方・考え方、いろんな例題を作ったりしてやっていた。自分ももう少し勉強していきたいなと興味を持った感もあった。今度もこのような機会があれば、何回か行けば前年度の比較とかなるだろうけど、今回の場合は見させていただいたという感じで、このような活動があるのかということがわかった。

【B委員】

私は荻小と堺小を訪問した。いまA委員からも出ていたが、感想を申し上げると、どう感想を言っているのか比較するものがないので、これが2回3回となっていけば変わってくるのではないかといったところ。先生と児童が一体となって授業を工夫しながら理解をしていくあのような教え方を昔からとは変わってきているのかなという感じを持っている。防災の関係をやっているもので、堺小に行った時に子供らが靴のかかとを踏んでいるかいないか見ていたが、踏んでいる子はひとりもいなかった。災害とか来た場合に自分の身を守るためにも大事なことなので、これからも続けていってほしいとお願いしてきた。

【C委員】

私は東部小の担当だったが、現役の子育て世代として他の学校の授業や校内を普段見ることがまずないので、そういう意味ではすごくよい機会だった。母親目線でも見ていたので、たぶん子どもたちも今日そういう方々が来るというのはわかっていたと思うけど、ずらざらっと大人が入って来るのが子どもたちにはすごい威圧感があったのではないかと、普通のクラスだったらよかったが、特殊学級の子どもたちこそ見たいポイントだと思うけど、社会教育委員は委員長と私だったのであとは職員の方と教育委員の方だったので、少し人数を減らしたり普段着の格好でお邪魔しますって感じで行く方が、繊細な子どもたちの普段の様子は見られるのかなと思う。あと、東部小の先生が資料をたくさん用意してくれた、こういうのとかこの日のための準備に先生たちへの負担がかかってないのかなと気になった。もっとさらっとした服装とかでお邪魔しますといった気軽に行く方が、きっと子どもたちも自然にいられるのかなと思った。

(2) 平成30年度主社会教育事業報告について

別紙資料2に基づき事務局より説明

(質疑等なし)

(3) 平成31年度主な事業について

別紙資料3に基づき事務局より説明

【A委員】

学校訪問の関係で、行った先で資料がものすごくあり、数ページなんて簡単なものではなく何倍もあるような。授業を見てもらったということで、学校側もあの資料づくりは負担になっているのではないかなと。例え慣れているとはいえ、行った人に配っている資料で、必要ないとは言わないが、もう少し簡素化されてもいいのかなと。あれを全部一日で見られるわけではないし、戻って帰って果たしてそれだけの資料をどれだけ見られるのか、また見ても説明を受けないとわからない。その日にあまり使わない物であれば学校側の負担を少しでも軽くしたいなと感じた。資料をもっと簡素化してもいいのかなと。あれぐらい必要なのかなと判断はわからないけれども。

【教育長】

学校の経営方針などもともと揃っている物で、それぞれの先生方が今日どんな授業をやるかという指導案だったりするが、10分くらいでたくさんまわるから学校によってはたくさんになってしまう。

【A委員】

それはわかるが、簡素化できるのであれば、もう少しいいのかなと。われわれ短時間で帰ってくるのだけれども、あれを見る側には負担になっているのかなと。生徒に対しても結構プレッシャーかかっているけど、それはしかたないとして、省けということではない。

【教育長】

年に一回の教育委員の学校訪問ということで気合を入れてやっている。

【A委員】

それはわかる。今年のはじめて参加させてもらったが、見た感じとしてこんなに資料を作らなければならない手間ひまかけてたいしたものだという印象を受けたので。

【C委員】

今の話は私も同感である。7頁の家庭教育推進事業でやっている浦子屋事業やマイクソーページさんのソーページ作りとかでやっている学校とかはどうやって選んでいるのか。

【事務局】

家庭教育学級は、4月に各学校にPTA会長宛てに講師の謝礼はこちらで出ということ

で案内している。やれているときとやれないときがあるが、荻伏小学校と荻伏中学校はだいたい毎年されているのですが、講師の謝礼を出して学校のPTAのこういった交流会とか講座とかに使ってくださいと案内をするので、ぜひ使っていただきたいと思う。

あと、浦子屋事業につきましては、こちらから来る講師が突然来たり事前にないようなところなので、学校には文書でこういう講師が来るので授業で使いませんかということで各学校に案内をする。学校の方で検討いただいて、その学年の授業にやらせてくださいというように調整していくようにしている。

【C委員】

タイミングのあったところということですね。

【事務局】

そうですね、それぞれ学校の状況で違うと思うので。

3. 協議事項

(1) 平成31年度に向けての要望・意見等

【D委員】

全体となるとなかなか見通せない、社会教育としての在り方としてはイメージしづらいなというところが正直あり、これは各市町村でも社会教育の在り方としてはいろいろあると思うけれども、そういった中で今年一年いろいろ段階とかタイミングでいろんな講師の方を呼ばれていて楽しそうだなと。年度のテーマというのがあると、参加する側としては参加しやすいのかなと。いろんな分野でただイベントとして芸術鑑賞があるから行こうかなというだけで、これが一般町民の方というのは社会教育という在り方というものなかで散らばっているなとイメージしづらいのかなと。せっかく、本校の高校開放講座というところで、先生方の意識は学校教育の糧というか、自分たちがやっていることは社会教育のひと役を担っているなという意識があるから、職員会議の中でもそういう話はする。テーマといったものがあると参加される方も参加しやすいかなと思う。

【E委員】

社会教育委員の学校訪問の関係だけれども、全ての学級を見てもらえるよう組むのだが、じっくり見たいという方も中にはいらっしゃる。その中でこちらで時間を区切ったりするより授業を自由に見てくださいというようにして、じっくり見られる方もいるだろうし、2・3か所見られる方もいらっしゃるし、見る側からしたらいいのかなということであれば、そのような形をとらしてもいいのかなと思う。

【F委員】

社会教育委員の方ははじめて今年度来ていただいたが、気軽にいつでも訪問していただければ幸いである。地域学校協働活動で、次年度にむけてコミュニティースクールに向けて環境づくり橋渡しの部分を今後とも学校として進めていくので協力していただければ助かる。

【A委員】

これだけの事業を限られた人数でこなしているということですのでごいなという印象を持っている。子ども会関連は実施できていたものが昨年ではできなかったという事情もわかりました。今年は天候に恵まれることを祈って、計画したものは実施していただきたいと思う。

【G委員】

わたしは手芸関係が多いが、老人クラブの出前講座だとか女性教養講座のなかでいろいろな手芸を伝えられたのはよかったと思う。それとは別に地域の学校の手芸クラブのお手伝いに一年に何回か行っている。学校に入っていく機会があまりないが、その時は先生や手芸クラブの児童に会うことができ非常にいい時間を過ごせたと思う。

【H委員】

健康上に問題を抱えてしまって去年一年間トータルで半年くらい入院していて、はじめて何一つ行事に参加できなかった。それでも、いついつこれがありますというように会議やイベントに参加しますかという出欠の案内が来ると、そろそろあるのかなと。行動に制限をかけられた身になると、そういうのがあるとひとつひとつ目標になる、ある意味支えのものになるのではないかなと考えて素晴らしいことだなと感じたし、これからもがんばっていただきたいと思う。

【I委員】

学校訪問についていろいろあったが、そのなかで今回に限らず今までも教育委員会の方では毎年やられているが、今日でたような意見が実際に出されているかどうか。

【教育長】

もともと教育委員の学校訪問は、毎月一回の教育委員の会議を行い年間の中で学校の意見を聞きながら年一回の教育委員の学校訪問を行っている。これがスタンダードだが、うちみたいに社会教育委員も一緒にというのは数少ない事例である。社会教育委員さんも一緒に行っていたというのは、これからはコミュニティースクールに向けてそれを支える社会教育の側としては地域学校協働活動が必要になってくるので、社会教育行政にいろんなことでアドバイスをいただく社会教育委員の皆様は学校の現場を見ていただこうと子

どもたちの生、学校での生ということ。あと、先生方とはなかなか意見交換はできないが、少なくとも教頭先生、校長先生と意見交換というか顔もわかるかなということ、今年度はじめた。教育委員さん方から社会教育委員さんが来てどうこうということはなく、一緒に来れてよかったなという旨の感想はいただいた。社会教育委員だけで行くのもいいのかなと。学校側でも来てもいいですよと、地域の方どうぞと。地域の人もなかなか来られないので社会教育委員の皆さんが代表として教育委員さんと行ってもらって他にもっとこれから地域学校協働活動が本格的になるその時に学校をもっと見てみたいとなった時には学校と相談できるかなと。

【C委員】

浦河の社会教育事業はすごい中身だなといつも楽しみにしながらいるが、周りの家族がなかなかあまり子ども同級生の家庭で参加している人があまり多くはないかなと。これだけすばらしい行事をやっているのに受ける側のアンテナをもっと広げられないかなと受ける側のレベルを上げていかないとと思った。

【J委員】

次女が成人式の開催ではお世話になった。着物の着くずれのお直しをボランティアの方がしていただいたり、軽食の準備に食生活改善推進員の方に助けていただいたり、ありがたかった。

【K委員】

全体的に見てあまり大きいまちで、とても素晴らしい事業をしてらっしゃると感心している。家庭教育推進事業で、情報発信にはフェイスブックは古くなってきたのかなと。ツイッターなどでも発信してもいいのかなと。

【L委員】

K委員もおっしゃっていた、ツイッターとかインスタグラムをしてはどうか。有名な方がたくさん写真をとって映える写真をとるというのはある。社会教育課さんからこういう事業がありますよというのがアップされてみんなが集まると思う。子どもたち親たちがやりたいことを拾うとか、先生たちも忙しいのはわかっているが、子どもたちにも選んでもらう方式にしたらどうかということも思った。

【事務局】

幼児についてはサークルとの会議があってお母さん方から意見は聞いているが、子どもたちに何をみたいとか何を聞きたいとか聞いてはいないので、そういう機会を持ちたいなと思っている。

【M委員】

2月に体験の学習フェスティバルというのをやっているが、そこで町民の方の集まりが少ないのかなと毎年思う。そんな中で文化協会として体験講座、体験教室といったものを私たちの力が必要ではないかということで3団体だったが、力が弱いというか、もっとたくさんの方に日本文化の趣味をもってほしいということで気持ちは一生懸命で、入って頂くためにいろいろやってはいるが、なかなか入っていただけない状況で、PRの仕方というのを私たちに教えていただきながら活動を続けていきたいと思っているので、よろしくお願いをしたい。

4. その他

和田課長より4月からの社会教育課の体制について紹介